



オンラインを含め200人超が参加

医療的ケア児の就学を考えるシンポジウム
 看護・教育・社会福祉の視点から議論を展開

多文化共生社会研究所主催

昨年9月に「医療的ケア児支援法」が施行された。その基本理念には、医療的ケアを必要とする児童とそうでない児童と共に教育を受けられるよう、就学を考えると、このを受けて8月27日、多文化共生社会研究所は、「医療的ケア児の就学を考える」をテーマに公開シンポジウムを開催した。冒頭、同研究所長の久田満総合人間科学部教授が、「医療的ケア児の就学先の一つとして普通学級が定着するために何が重要か」と題して趣旨説明を行った。

第一部では、新

オンラインを含め200人超が参加

たなビジネスモデル提言の一環で実施された。経済学部の3つのゼミナールから有志の学生たちが参加する同プロジェクトは、日本のバッグ・シューズ業界が抱える経営課題を分析し、将来に向けた「新たな姿」を業界関係者に提言することを目的として行っている。

プロジェクトでは、経営戦略、マーケティング、会計学を専門とするゼミに所属する学生たちが4つの混成グループを編成。各グループは、それぞれのゼミで学んだ専門知識を駆使しながら調査・討議を行い、商品企画に取り組みだ。

プレゼンテーションでは、ターゲット顧客、マーケティングミックス(製品・価格・流通・プロモーション)

試作品に視線を注ぐ木山社長(右)

試作品に視線を注ぐ木山社長(右)

「プロモーション」にポイントを絞って、成果を発表。各グループからはバスポートケース、ペアバッグ、マイクログルック、ランドセルなどの企画案が発表された。いずれも商品の随所に、多様性、サステナビリティ、「他者のため」といった上智大学らしさを感じさせるコンセプトが盛り込まれていた。なかには、実際にサンプル品を手作りして披露したグループもあり、その完成度の高さに参加者が驚きの表情を見せる場面もあった。

企画提案を聞いた同社代表取締役社長の木山剛史氏は「靴職人が減っており、ビジネスアイデア

議論は、医療的ケア児子どももいる。子どもの主治医と学校がうまく引き継ぎを行い、切れ目のない支援が求められている」と語った。

議論は、医療的ケア児子どももいる。子どもの主治医と学校がうまく引き継ぎを行い、切れ目のない支援が求められている」と語った。

議論は、医療的ケア児子どももいる。子どもの主治医と学校がうまく引き継ぎを行い、切れ目のない支援が求められている」と語った。

新潟県佐渡市と包括連携協定を締結
 自然環境保全やSDGs推進等に取り組む

9月1日、本学などを運営する上智学院は、新潟県佐渡市と、地域スケールにおける自然環境保全やSDGsの推進、および人材の育成と国際交流の促進を目的とした包括連携協定を締結した。

同日、隣道佳明学

同日、隣道佳明学

同日、隣道佳明学

同日、隣道佳明学

教皇フランシスコの呼びかけに応じラウダート・シ大学に加盟
 持続可能な社会を目指す

2022年3月、本学は教皇フランシスコの呼びかけに応え、ラウダート・シ大学に加盟した。日本の大学で加盟したのは本学が初。

ラウダート・シとは、

ラウダート・シとは、

ラウダート・シとは、

ラウダート・シとは、

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

多文化共生社会研究所主催

靴小売大手のサックスパーホールディングスが協力
日本のものづくり再興を考えるプロジェクトの一環で
経済学部生が靴の商品企画に挑戦



専門領域が異なる学生が討議を重ねた



試作品に視線を注ぐ木山社長(右)

7月15日、経済学部の学生が、バッグ・靴小売大手の株式会社サックスパーホールディングスの経営層や技術者に対して商品企画のプレゼンテーションを行った。同社と経済学部による産学連携プロジェクト「日本のものづくり再興の方策：新

たなビジネスモデル提言の一環で実施された。経済学部の3つのゼミナールから有志の学生たちが参加する同プロジェクトは、日本のバッグ・シューズ業界が抱える経営課題を分析し、将来に向けた「新たな姿」を業界関係者に提言することを目的として行っている。

プロジェクトでは、経営戦略、マーケティング、会計学を専門とするゼミに所属する学生たちが4つの混成グループを編成。各グループは、それぞれのゼミで学んだ専門知識を駆使しながら調査・討議を行い、商品企画に取り組みだ。

プレゼンテーションでは、ターゲット顧客、マーケティングミックス(製品・価格・流通・プロモーション)

「プロモーション」にポイントを絞って、成果を発表。各グループからはバスポートケース、ペアバッグ、マイクログルック、ランドセルなどの企画案が発表された。いずれも商品の随所に、多様性、サステナビリティ、「他者のため」といった上智大学らしさを感じさせるコンセプトが盛り込まれていた。なかには、実際にサンプル品を手作りして披露したグループもあり、その完成度の高さに参加者が驚きの表情を見せる場面もあった。

企画提案を聞いた同社代表取締役社長の木山剛史氏は「靴職人が減っており、ビジネスアイデア



かつて社専の授業が行われていた旧6号館

オンライン企画展
上智のイエズス会員と社会福祉専門学校のあゆみ

ソフィア・アーカイブズでは、第4回オンライン企画展「上智のイエズス会員と社会福祉専門学校のあゆみ」として、3月に閉校。専門職を多く輩出した社専の根底にあったのは、本学の設立母体であるカトリック修道会イエズス会の、貧困などの社会問題と常に向かい合いその解決に尽力してきた精神である。

本展示の第1章では、本学の

第18回国連 Weeks, October 2022	
シンポジウム	10/11 (火) 経済制裁のインパクト: EUと国連
シンポジウム	10/12 (水) アフガニスタン人道危機と支援 ~農業、民間セクター、経済
UNDP・UNV	キャリアセミナー 10/17 (月) 国連開発計画 (UNDP) と国連ボランティア計画 (UNV): その役割とキャリア
シンポジウム	10/18 (火) パリ協定達成に向けた脱炭素への取り組みとSDGsのインターリンク: グローバル・ローカルなイニシアティブ
キャリア・セッション	10/18 (火) 国際機関 キャリア・ワークショップ
シンポジウム	10/20 (木) 私たちの「食」を考える 世界の「食」を考える
シンポジウム	10/22 (土) ウクライナ戦争をどう終わらせるか?
シンポジウム	10/24 (月) 軍拡時代の軍縮への課題: 国連と日本の役割
シンポジウム	10/26 (水) ウクライナ避難民保護にみる国際協力の将来 - UNHCR スタッフと語る -

※すべて Zoom によるオンライン開催となります。
 ※各イベントの詳細および参加申し込みは、下記 URL または QR コードからご確認ください。
<https://www.sophia.ac.jp/jpn/global/program/UNWeeks.html>